

日曹 **ストロビー**® フロアブル
STROBY

登録番号 第21988号
種類名 クレソキシムメチル水和剤
kresoxim-methyl
殺菌剤分類 11
性状 類白色水和性粘稠懸濁液体
有効年限 4年

有効成分 クレソキシムメチル 44.2%
毒性 普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
包装 (100mℓ×10本)×6箱、500mℓ×20本

■特長

- 幅広い抗菌活性で各種作物の重要病害に効果を示します。
- 予防効果に優れますが、治療効果も有します。
- 有効成分が植物体に均一に拡散するため、安定した効果を維持することができます。



最新の登録内容、
SDSはこちら

■適用病害名及び使用方法

(2024年2月28日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量(ℓ/10a)	使用時期	本剤及びクレソキシムメチルを含む農薬の総使用回数	使用方法
麦類 (小麦を除く)	うどんこ病 赤かび病	2,000～3,000	60～150	収穫14日前まで		散布
小麦	赤さび病 赤かび病					
やまいも	葉渋病	2,000～3,000	100～300	収穫7日前まで	3回以内	無人航空機 による散布
やまいも (むかご)		24	3			
		2,000				
きゅうり	炭疽病	3,000		収穫前日まで	2回以内	
きゅうり (花)	うどんこ病 べと病、褐斑病			※収穫開始 3日前まで		
すいか	炭疽病	2,000～3,000		収穫前日まで		
メロン	うどんこ病 つる枯病					
	べと病					
かぼちゃ にがうり	べと病 うどんこ病	3,000	100～300	収穫7日前まで	3回以内	散布
うり類 (漬物用)	つる枯病 炭疽病			収穫3日前まで		
	ズッキーニ			うどんこ病		
なす	すすかび病					
ピーマン	うどんこ病					
ししとう	黒枯病	4,000			2回以内	
とうがらし類 (ししとうを除く)	うどんこ病					
いちご		3,000～5,000			3回以内	

※きゅうり(花)の使用時期は収穫開始3日前まで(収穫開始後は使用しない)。

殺菌剤 日曹ストロビーフロアブル

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量 (ℓ /10a)	使用時期	本剤及びクレスキシムメチルを含む 農薬の総使用回数	使用方法	
はくさい	黒斑病、白斑病 べと病	3,000	100～300	収穫3日前まで	3回以内	散 布	
非結球レタス	褐斑病			収穫7日前まで	2回以内		
たかな 非結球はくさい	白斑病			収穫14日前まで	3回以内		
すいぜんじな のざわな	黒斑病 べと病			3,000～4,000	収穫前日まで		2回以内
タアサイ	白さび病						
なばな類	黒斑病	3,000		3回以内			
さやえんどう 実えんどう	さび病	2,000		収穫7日前まで	2回以内		
にら にら(花茎)	白斑葉枯病			収穫21日前まで			
ねぎ	黒斑病、さび病 黄斑病	3,000		0.8 1.6 3.2	収穫14日前まで		無人航空機 による散布
わけぎ	灰色かび病	2,000～3,000					
たまねぎ	灰色かび病	10					
	灰色腐敗病	20					
	灰色腐敗病	40					
葉にんにく	さび病	2,000	100～300	3回以内	無人航空機 による散布		
にんにく		8					
		16					
にんじん	黒葉枯病 斑点病	16	1.6	収穫7日前まで			
	黒葉枯病 斑点病	2,000～3,000	100～300	収穫14日前まで			
しゅんぎく	炭疽病	3,000					
セルリー	斑点病	2,000	収穫前日まで	2回以内			
てんさい	葉腐病 褐斑病		2,000～3,000		収穫21日前まで		
食用ぎく きく(葉)	白さび病 黒斑病、褐斑病	3,000	100～300	収穫3日前まで	2回以内		
きく	黒斑病、褐斑病	2,000～3,000		収穫7日前まで			
食用ゆり	葉枯病	2,000	発病初期	3回以内			
食用金魚草	さび病	3,000	収穫7日前まで	2回以内			
たらのき	そうか病	2,000	収穫75日前まで	1回			
パセリ	うどんこ病	3,000	収穫14日前まで				
モロヘイヤ	炭疽病		3,000	収穫前日まで	2回以内		
しそ科葉菜類 (しそを除く)	灰色かび病	3,000	収穫7日前まで				

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量(ℓ/10a)	使用時期	本剤及びクレスキシムメチルを含む農薬の総使用回数	使用方法	
しそ	灰色かび病	3,000	100～300	収穫7日前まで	2回以内	散布	
	斑点病	4,000					
アスパラガス	斑点病	2,000	100～500	収穫前日まで	3回以内		
食用トレニア	うどんこ病	4,000	100～300	収穫3日前まで	2回以内		
食用パンジー				収穫7日前まで			
食用西洋たんぽぽ		3,000		収穫45日前まで			
食用かえで(葉)				収穫3日前まで			
ディル(葉) チャービル							
らっきょう	乾腐病	200	-	植付前	1回		30分間種球浸漬
茶	もち病 網もち病	2,000	200～400	摘採10日前まで	3回以内		散布
	炭疽病、輪斑病 新梢枯死症	2,000～3,000					
りんどう	褐斑病、黒斑病	2,000	100～700	発病初期			
アスター	さび病	2,000～3,000	100～300				
たばこ	赤星病	3,000	100～180	収穫5日前まで	2回以内		

△ 効果・薬害などの注意

1. 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
2. 使用に当たっては容器をよく振ってください。
3. 散布液調製の際は、水をかきまぜながら本剤の所定量を徐々に加えてください。
4. 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用してください。
5. 小麦に対して希釈倍数500倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を使用してください。
6. いちごの施設栽培で施設内が高温多湿な場合は、薬害を防ぐため散布後十分な換気を行ってください。また、特に散布後高温が予想される場合は使用しないでください。
7. 浸透性を高める効果のある展着剤を混用すると薬害を生じる場合があるので、展着剤混用に当たっては事前にその適否を確認してください。
8. メロンに使用する場合は、交配～幼果期までの散布では薬害を生じることがあるので、この時期の散布はさけてください。
9. きくに使用する場合には、高温多湿条件下では薬害を生じる場合があるので使用しないでください。
10. きくに使用する場合には、他剤との混用で薬害が生じる場合があるので注意してください。
11. はくさいに使用する場合には、結球後期(あたまとし)までの散布で薬害が生じる場合があるので、使用をさけてください。
12. はくさいに使用する場合には、高温多湿条件下では薬害を生じる場合があるので、使用をさけてください。
13. 食用金魚草に使用する場合は、開花後の花に薬害を生じるおそれがあるので、開花前までに散布してください。また、花に薬害が生じるため、観賞用である(非食用)金魚草には使用しないでください。
14. のぎわなに使用する場合には、幼苗期の散布は多湿条件下では薬害が生じるおそれがあるので注意してください。
15. しゅんぎくに使用する場合には、幼苗期の散布は多湿条件下では薬害が生じるおそれがあるので注意してください。
16. アスパラガスに使用する場合には、高温多湿条件下では薬害を生じる場合があるので使用をさけてください。展着剤の加用はさけてください。
17. みずかけな(水掛菜)に使用する場合は、ほ場内に水がない状態で使用してください。また、使用后14日間は入水しないでください。

18. 無人航空機で散布する場合は、次の事項に注意してください。
- (1) 散布機種 of 散布基準に従って実施してください。
 - (2) 散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - (3) 散布中、薬液が漏れないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - (4) 蚕に対して影響を及ぼすおそれがあるので、養蚕で使用する桑葉にかからないようにしてください。
 - (5) 散布薬液の飛散による他の分野への影響に注意して、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
 - (6) 散布終了後は以下の注意事項を守ってください。
 - ・使用後の空容器は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
 - ・使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。
 - ・散布終了後、機体の装置は十分洗浄してください。また、薬液タンクの洗浄廃液は河川等に流さないでください。
19. 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
20. 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

▲ 安全使用上の注意 

21. 眼に対して弱い刺激性があるので、眼に入らないように注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗してください。
22. 使用の際は不浸透性手袋などを着用してください。

水産動植物への影響：使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管：密栓し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼な場所に保管してください。

【農薬をご使用の際は】

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には、使用しないでください。
- 小児の手の届く所には、置かないでください。
- 空容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。